

ファンドマネージャーの眼

ファンドマネージャー独自の視点で市況を分析



『メンテナンス』

2017年2月10日

グローバル・エクイティ運用部

私は1997年から現在まで、同じ乗用車に19年余り乗り続けている。その車は、北海道勤務の社会人2年目に自動車ローン組んで新車で購入したものだ。冬にアイスバーンやシャーベット状の路面などの過酷な環境下で走行しなければならないことを考慮して、価格設定が比較的手頃な四輪駆動・マニュアルトランスミッションの国産車を選択した。購入当初は、5~6年乗ったら別の車に買い換えようと軽く考えていた。しかし、5ナンバーサイズの小型乗用車とはいえ、荷物を多く積めるなど機能性が高いことやデザインが気に入っていたことに加え、1997年当時の最高出力の自主規制上限280馬力を有しており力強い加速が楽しめるなどの利点があったことから、乗れば乗るほどに愛着がどんどん増してゆき、19年経った今もなお快調に走らせるに至っている。現在多くの車に標準装備されているような気の利いた安全装備はエアバッグくらいしかついておらず、ナビゲーションシステムなどの便利なモノもない。その代わりに、純正のカーオーディオではCDに加えてカセットテープを聴くことができる。昨年の正月に帰省した際、「昭和」の頃にダビングしたカセットテープをたまたま発見したので、持ち帰ってそのカーオーディオで再生したところ、難なく聴くことができた。カセットテープは年月を経るとへろへろに劣化するとイメージを私は持っていたが、意外と耐久性があるのには驚いた。

19年間大きなトラブルなく走り続けてきたわが愛車だが、走行距離は12万kmを超え、ボディの表面をよく見ると小さなへこみやキズが何カ所かあった。これまで半年に1度の定期点検を欠かさず、必要に応じて部品交換をしてきたとはいえ、エンジンやサスペンション、マフラーなど一度も交換しなかった部品も多くあり、金属疲労や経年劣化などの面で不安が残る。そこで、今後も安全で快適な運転を続けるためには、このタイミングで本格的なメンテナンスに踏み切った方がよいと判断した。自宅近辺でそのような類のサービスを提供する場を探してみたが見つからなかったため、以前よりホームページなどでメンテナンス実績があることを知っていた遠方のサービス工場に作業を依頼することにした。そのサービス工場は、2016年に大ヒットした映画『君の名は。』の舞台のモデルになったと言われる場所から程近いところにあり、自宅からは300km以上離れている。まずメンテナンスの見積もり金額を出すための予備点検を行い、その約3週間後にエンジンやサスペンション、トランスミッション等の主要骨格部位を中心とする分解整備や消耗品交換、ボディの钣金塗装などの作業を行うため、11月中旬に車をサービス工場に預けた。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

メンテナンス期間中は、電車移動をすれば事足りると思い、特に代車を確保しなかった。しかし、大きな荷物を運ぶなど自動車が必要な用事が発生したため、レンタカーを活用することにした。いざ自宅最寄りのレンタカー店舗に足を運ぶと、真っ先に目に入ったのは、最新のマニュアル車を数時間単位で運転できるとのキャンペーンチラシ。最初の内は手頃な価格で借りられる小さな車を借りたが、チラシのマニュアル車キャンペーンがどうしても気になる。後日、店員さんに試しにマニュアル車を借りられる日があるかたずねたところ、クリスマス・イブの12月24日に限りコンバーチブルタイプのマニュアル車に空きがあるとのことだったため、即断即決でそのコンバーチブルカーも丸1日借りることにした。結局のところ、メンテナンス期間中に複数ブランドの軽自動車、小型乗用車、ハイブリッドカー2台、マニュアル車のコンバーチブルカーを合計5台借りて運転してしまった。

散財と言えば散財だが、得るものも大きかった。それは、現在流通する乗用車に装備されている様々な機能を肌で感じる事ができたからだ。同じ乗用車に19年余り乗り続けているだけあり、そこからの変化を感じやすかった。アイドリング時のエンジンの自動停止、周辺の暗さに応じたヘッドライトの自動点灯、メーターパネルの燃費表示など、今となっては当たり前のような装備だが、私には新鮮に感じられた。ただ、エンジンを起動する際、キーをひねらずにスタートボタンを押すのには少し戸惑ったし（キーを無くしそうな気がしたため）、ハイブリッドカーに搭載されているエネルギー回生システムに関しては、減速時に体が前方につんのめるような不思議な感じを受けた。件のコンバーチブルカーに関しては正直なところ、マニュアル車ゆえ装備面に関してはあまり期待していなかった。しかし、運転中に車線を跨いだり、側方や後方からの接近車両を検知すると警告音を出すと同時に、サイドミラーにオレンジ色で接近を視覚的に知らせるなどの安全機能を備えており、驚くとともに非常に面白いと感じた。おそらくこれらの技術がさらに向上し、あるいは結合することにより新たな技術に昇華し、いずれは現在研究が進められる自動運転の本格実現につながるのだと思った。このような新技術は、字面を目で追ってなんとなく想像するよりも、実際に体感する方がよほど腹に落ちた形で理解できると思う。

メンテナンスを開始して1ヵ月余り経った後、サービス工場より作業が完了したとの連絡が入ったため、車を引き取りにサービス工場に向かった。ボディがきれいに磨き上げられたことを確認した後、部品交換後に車から取り外されたラジエターやゴム製のパイプ、ブレーキシステム等や、作業中に各部位を撮影した写真を見せてもらった。大小様々で膨大な数の部品が合わさって自動車が成り立っているのだとあらためて感心し、それらをいとも簡単に分解し、再び組み上げる修理担当の方の腕は見事としか言いようがないと思った。引き取り直後に早速サービス工場から自宅まで300km超を走行し、新車の頃を思い出させるような走りに嬉しい気持ちになるとともに、メンテナンスを行うことで日本製の乗用車をどれほど長く快適に乗ることが可能か、この車をモデルにして実証してみたいと思った。ちなみに、一般財団法人自動車検査登録情報協会のデータによると、私の車と同様に1997年度に新車登録された後、2016年3月末まで現役で走り続けてきた乗用車は397.3万台中50.5万台で、残存率は12.7%である。「昭和」末期に新車登録された乗用車を見ると、残存率は1%台にまで低下する。この数値に対する捉え方は人それぞれであると思うが、私は「乗り続ける信念を持ち、メンテナンスを定期的にしつかり行えば」乗用車を25年、30年…と現役の状態を保つのは可能であることを示唆していると考ええる。

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

メンテナンスビジネスと聞くと、自動車のほか、住居やオフィスなどの不動産、道路や鉄道といった輸送インフラにかかわるモノがまず思い浮かぶ。メンテナンスをより広義にとらえると、コピー機やプリンタのトナーやインク、靴底修理、衣服のクリーニングなど様々なビジネスがある。メンテナンスビジネスにはなんとなく地味な印象を持っていたが、実はこれらは継続的かつ安定的なキャッシュフローを生み出し、収益性も高いという話を聞いたことがある。人間自身が関連するモノ・コトに目を向けると、健康の維持・増進、ストレス社会のなかでの精神面の管理にかかわるサービスビジネスは益々関心を集めつつあると思うし、人間自身が属する企業・組織も、業績を上げるためには市場の変化に対応する必要がある、常に仕組みのメンテナンスが必要であると思われる。株式投資に従事していると、新製品や急成長しているビジネスの動向についつい目が向きがちになると自覚しているが、一見地味ながらも実はメンテナンスビジネスを通じて継続的かつ安定的に収益が上がる仕組みを構築している企業・組織が多く存在していると思われる。経済活動を織りなすいろいろな面に目を配りながら、これからも好奇心をもって株式投資業務に臨みたい。

日本の乗用車の新車台数・残存台数（初度登録年度別）

初度登録年度	新車台数 (台)	2016年 3月末 時点の 残存台数 (台)	残存率 (%)
2015年4月-2016年3月	2,680,744	2,629,376	98.08
2014年4月-2015年3月	2,686,443	2,622,658	97.63
2013年4月-2014年3月	3,009,243	2,920,514	97.05
2012年4月-2013年3月	2,861,988	2,715,709	94.89
2011年4月-2012年3月	2,726,737	2,546,180	93.38
2010年4月-2011年3月	2,668,223	2,366,405	88.69
2009年4月-2010年3月	2,890,738	2,561,881	88.62
2008年4月-2009年3月	2,513,769	2,070,457	82.36
2007年4月-2008年3月	2,956,931	2,357,017	79.71
2006年4月-2007年3月	3,019,838	2,271,658	75.22
2005年4月-2006年3月	3,330,860	2,399,626	72.04
2004年4月-2005年3月	3,385,833	2,124,963	62.76
2003年4月-2004年3月	3,393,452	1,924,906	56.72
2002年4月-2003年3月	3,546,436	1,566,714	44.18
2001年4月-2002年3月	3,456,764	1,251,529	36.21
2000年4月-2001年3月	3,547,216	962,709	27.14
1999年4月-2000年3月	3,423,541	764,903	22.34
1998年4月-1999年3月	3,609,407	558,520	15.47
1997年4月-1998年3月	3,973,065	505,613	12.73
1996年4月-1997年3月	4,612,465	429,543	9.31
1995年4月-1996年3月	4,240,869	318,596	7.51
1994年4月-1995年3月	4,156,108	243,671	5.86
1993年4月-1994年3月	3,971,527	212,312	5.35
1992年4月-1993年3月	4,310,349	184,313	4.28
1991年4月-1992年3月	4,531,466	192,376	4.25
1990年4月-1991年3月	4,712,843	155,143	3.29
1989年4月-1990年3月	4,688,433	130,295	2.78
1988年4月-1989年3月	3,770,228	66,773	1.77
1987年4月-1988年3月	3,493,154	49,624	1.42
1987年3月以前	-	250,661	-
合計		39,354,645	

※初度登録年度：新しく購入した自動車を陸運支局に初めて登録申請し受理された年度
 (出所) 一般財団法人 自動車検査登録情報協会のデータより岡三アセットマネジメント作成



エンジンを抜き取った状態のボンネット部分



部品清掃等を行うために筆者の車から抜き取ったエンジン部分

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。